

WIPO世界イノベーションクラスター2026：日本の現在地と次世代の地域戦略

世界ランキングの結果と日本の現在地

世界トップ5と日本の主要3拠点

1. 深圳－香港－広州
2. 東京－横浜
3. (Seoul)
4. (Beijing)
5. (Shanghai-Suzhou)

評価を左右する「3つの観測軸」



特許(発明者)
International Patents



科学論文(著者)
Scientific Papers



VC取引(企業)
VC Deals



日本の強みと構造的な弱み

特許活動は
極めて強い



米中に比べ
スタートアップへ
成長資本(VC)
供給が不足

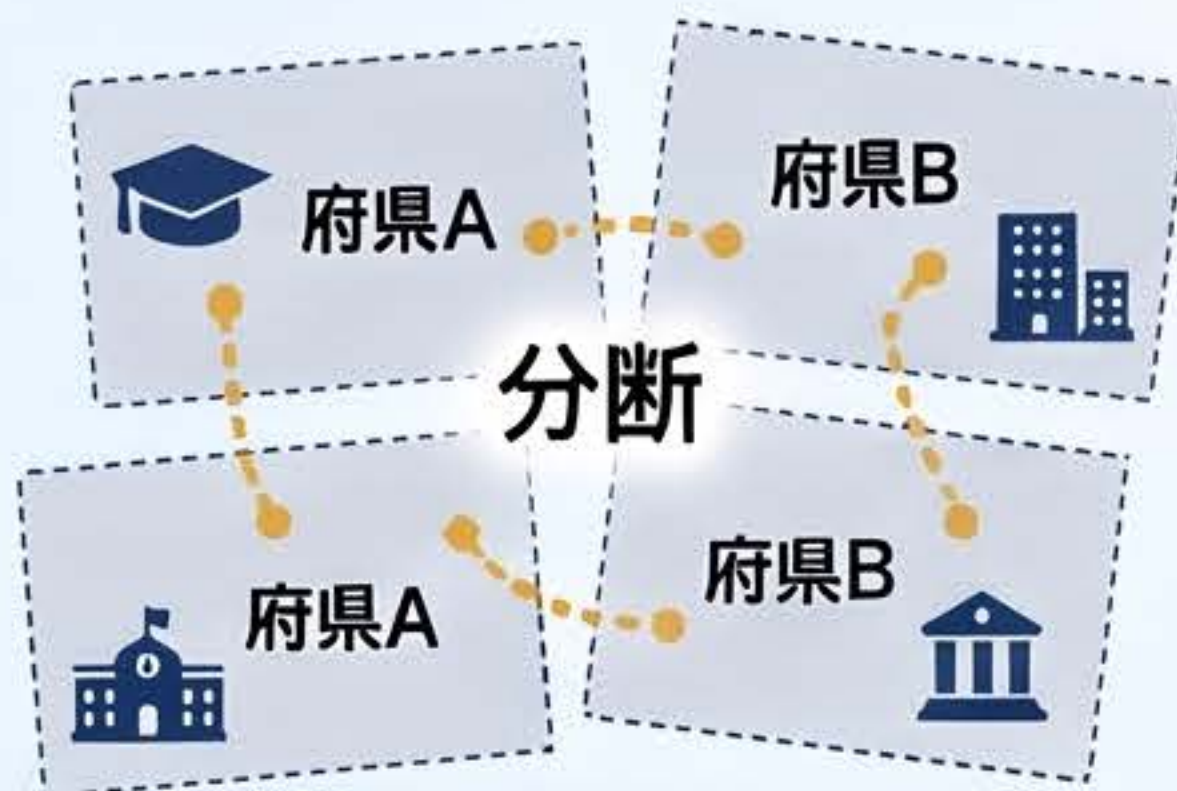
日本の主要クラスターの現状と課題

クラスター	世界順位	強みの源泉	今後の課題
● 東京－横浜	2位	● 巨大企業R&D、ICT、自動車	● 独立系VC・大学発企業の厚み
● 大阪－神戸－京都	10位	● バイオ、医薬、素材、大学群	● 3府県関の制度分断の解消
● 名古屋	29位	● 自動車、航空宇宙、工作機械	● 製造特許を新事業へ変換する力

日本の地域政策への戦略的示唆

「行政界」から「機能的圏域」への転換

現在：行政界



未来：機能的圏域



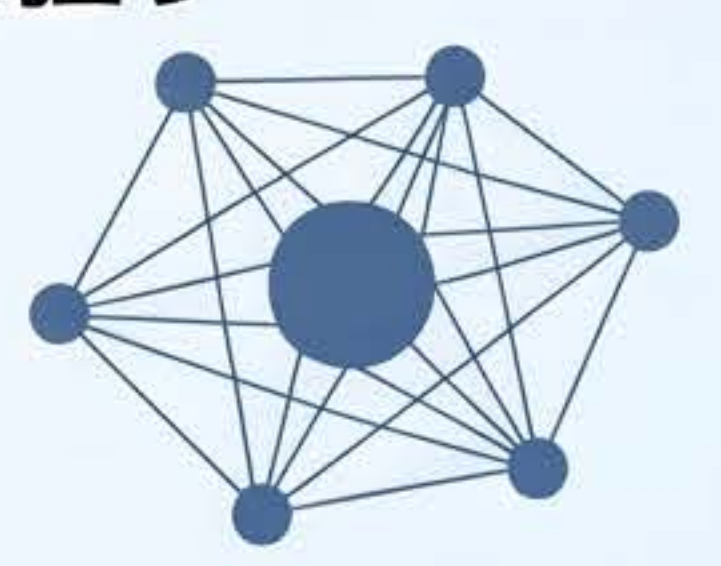
市境や県境を越え、大学・企業・投資家が繋がる
実際の経済圏単位での政策設計が不可欠

小規模地域は「強度(Intensity)」を狙う



ケンブリッジ型

特定の技術分野で
人口当たりのイノベーション密度を高める



知識を富に変える「変換連鎖」の構築

